INFORMATION AND KNOWLEDGE NEWS

情報知識学会ニューズレター
1999.4.1
53

情報知識学会事務局 発行 〒110-8560 東京都台東区台東1-5-1 凸版印刷(株)内 ISSN 0915 1133
TEL: 03-3835-5692 FAX: 03-3837-0368 E-mail: LDE01013@nifty.ne.jp

目　次

[巻頭言] 新年度にあたって ..... (藤原鎮男) 1
[お知らせ] 総会および研究報告会 3
会場案内図 4
プログラム 5
[報告] WDCM シンポジウム ..... (菅原秀明) 7
[お知らせ] 情報知識学会が関連する行事予定 9
[お知らせ] 年会費納入について ..... (事務局) 11
[お知らせ] 情報知識学会ホームページの URL の変更 12

[巻頭言]

新年度にあたって

情報知識学会会長　藤原鎮男

平成１１年度のはじめにあたり、ご挨拶として二三申し述べさせて頂きます。

創　立　１０　周　年　記　念　会　誌

本学会は昨年創立１０周年を迎えました。それを記念して理事会は、情報知識学の現状と今後の展望について理事の諸氏に御意見を伺い、それを会誌に逐次発表してゆくこととしました。本年度第９巻１号から逐次論文として登載の予定であります。私もここで、本学会の発足から今日にいたるまでの、情報学の展開にかかわる学会活動を展望いたしました。理事の構成は多方面にわたりますので、今後、会誌上でこの学問の動向を見ていただけるでしょう。会員諸賢の御意見も是非伺いたいと思います。奮っての御寄稿を仰ぎたく思います。

研　究　発　表　会

５月２２日（土）の研究発表会には１６件の応募があり、プログラムも決まりました。目下要旨集を印刷中です。幸い、現下の情報知識の学術に対応した研究報告が揃いました。会員各位におかれましては万障お繰り合わせ御参会下さるようお願い致します。

展　望

この数年における本学会の活動では、時代の動向に合わせての企画と対応が図られてきました。個々のことでは、まず、「情報知識の規格化」が先端の課題になった当時、時代を先導して会誌のＳＧＭＬ化をはかり、またその普及が時代の要請であるとの認識で３年前に講習の効果を念頭において、

a）「ＳＧＭＬ、ＸＭＬ講演会」を始めました。

これはすでに３回を数えます。産官学からの講師派遣、聴講者の参加も定着し毎回盛会であり、本年度も継続実施の予定で準備を進めつつあります。

b）「知　的　財　産　権、複　写　権」

本学会はこの問題をもっとも直接自身に関わる問題と認識し、事の実態の把握と会員諸氏への紹介に努めて来ました。複数回の講演会の開催などをすでに行っていますが、近来、状況が複雑化し、そのため関心を持ちながら核心を把握することが困難になっている感があります。こういう状況なればこそ、学会が有識者、専門家、当事者の御意見を得、それを流通させる機能を果たすべきでしょう。本年はこの面の活動も考慮したく思います。

c）　そ　の　他

広い分野で構成される本学会は別して社会寄与に目配りした活動に努めるべきでありましょう。とくに時代の動きに即応する活動が望まれます。多様化するメデイヤ界の展開や、多角的に変容する環境情報、遺伝子、脳科学などに見られるような大規模な先端科学技術の情報は、横断的、包括的な解説と理解を必要としています。個別の専門家集団すら自己の発展にそれが必要であると認識しはじめ、公開のフオーラム開催などの工夫に努めている状況です。

これは情報流通を直接の対象とする学術にも変革を促す事態になりました。学会のインターネット化です。例えば、学会誌関連では論文の全文データベース化とそのオンライン利用、これに伴っての電子図書館構築はその例といえましょう。これらは知の資源の組織化とその流通がつぎの新時代を迎えつつある証しであります。本学会の状況は、これに十分応え得ていませんが、多方面の代表が揃っている理事会メンバー各位の活動を願ってやまぬ所であります。

以上のことはまた、「知」の世界が根本の変動期にあることを示しましょう。私事で恐縮ですが、私は先日、「虚の知と実の知のバランスを」持つことが知の再生産の根本の重要事であることを訴えました。（丸善　「学鐙」　９６巻４号）。ここで私は、知識は今後どのようにして流通し、保存し、再生産されるべきものかについて考えを述べたのです。本学会会員諸氏にも率先してこの問題をお考え願いたいと思います。

それにつけ、これまで我々は余りに外からの風に流されて来たという感を拭えません。わが国からの発信が出来ないものでしょうか。私は世界の図書の文字数はいかほどだろうと思ったことがあります。そして、それはおよそ３千兆字くらいと勘定しました。これを全文データベースの時代の国際協力事業として、日本から提案できないものでしょうか。清の康熙字典、ドイツのグメリンやバイルシュタインのハンドブック、米国のケミカルアブストラクツなど、いずれも文化国家の名を千古の歴史にとどめる不滅の業績です。情報学にかかわる本学会として、会員各位のいっそうの御活動、御協力を願い、新年度の始めなので一言「夢」を添えさせて頂きました。

［お知らせ］

総会および第７回（1999 年度）研究報告会

情報知識学会・平成 11 年度総会および第７回（1999 年度）研究報告会を下記の通り開催します。万障お繰り合わせのうえ、ぜひご出席ください。

研究報告会は会員以外のかたも参加できます（無料）。後掲のプログラムを紹介し、お知り合いのかたがたを大勢お誘いくださるようお願いします。

準備の都合がありますので、（出欠未定のかたも含め）総会出欠票（葉書）を至急ご返送ください。

＜　記　＞

１．日　時　　平成１１年５月２２日（土）　受付開始　　９：３０
研究発表　１０：００～
総会　　１７：３０～
（時間は若干変わる場合があります。）

２．会　場　　凸版印刷（株）　本社ビル１階ホール
東京都千代田区神田和泉町１番地（次頁案内図参照）

３．参加者　　情報知識学会会員ほか、一般参加も歓迎（参加費無料）。

４．予稿集　　学会員および当日の参加者には会場受付で「第７回（1999 年度）研究報告会講演論文集」を 2,000 円で頒布します。
当日参加できないかたで、ご希望のかたには後日郵送します。
通常は 3,000 円ですが、学会員は送料込み 2,000 円です。

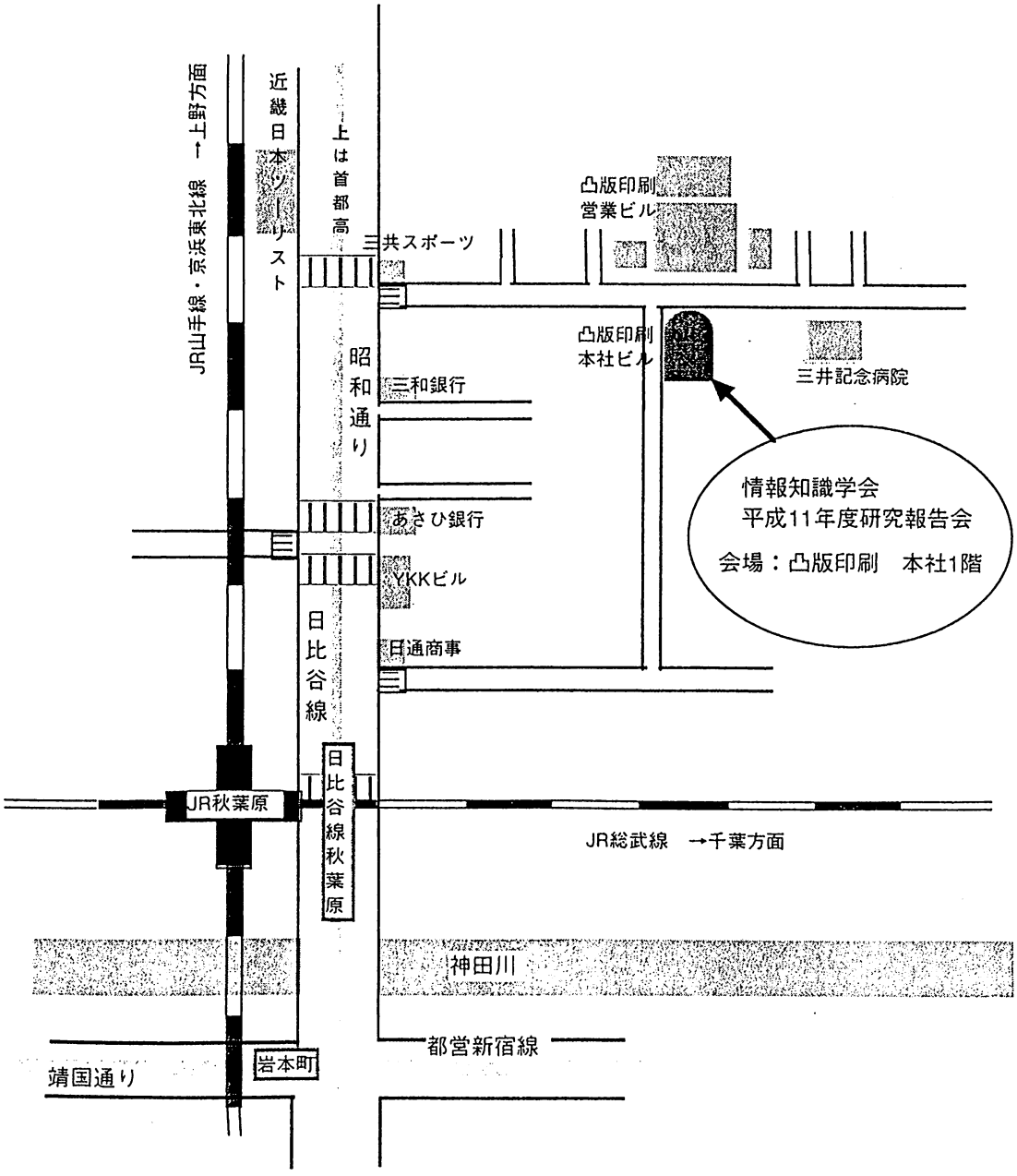
５．昼　食　　当日は弁当を用意できませんので、ご持参頂くか、会場周辺の飲食店をご利用ください。コンビニエンスストアもあります。

６．出　欠　　学会員は総会について、出席・欠席にかかわらず、同封の葉書を必ずご返送ください。欠席または出欠未定と記入された葉書は総会議長宛の委任状とさせて頂きます。

７．その他　　ご不明の点はご遠慮無く事務局へお問い合わせください。
情報知識学会事務局　E-mail:LDE01013@nifty.ne.jp
TEL:03-3835-5692　FAX:03-3837-0368

会場案内図

JR「秋葉原」駅東口（昭和通り口）より徒歩約１０分
営団地下鉄「秋葉原」駅（上野より出口）よ徒歩約１０分
都営地下鉄「岩本町」駅より徒歩約１５分



［お知らせ］

情報知識学会・第７回（1999年度）研究報告会プログラム

平成１１年５月２２日（土）開催
於:凸版印刷(株)本社ビル１階ホール

9:30　受付開始

「情報検索」

10:00-10:20　ZOU Yongli　慶應義塾大学大学院　細野公男研究室
情報検索における非主題的キーワードの特徴と意義

10:20-10:40　相良　佳弘　慶應義塾大学大学院　細野公男研究室
情報検索行動における検索の終了

10:40-11:00　河野　浩之　京都大学大学院情報学研究科システム科学専攻
テキストマイニングを用いた文書検索支援システム

11:00-12:00（特別講演）　根岸 正光　学術情報センター
デジタル・コンテンツ・サービスの動向と情報学（仮題）

12:00-13:00　昼食

「情報知識学」

13:00-13:20　藤原　鎮男　神奈川大学総合理学研究所
知識の”柔らかさ”の計量の試みとその意義

13:20-13:40　中林　和典　理化学研究所脳科学総合センター
理化学研究所脳科学総合センターにおける
Neuroinformatics への取り組み構想

13:40-14:00　村上　茂三　止観第一研究所
情報知識学思案ー起草／承章ー Why & Then

「デジタル・コンテンツ」

14:00-14:20　阪口　哲男　図書館情報大学
タグ付き文書を対象とした多言語全文検索システム

14:20-14:40　安宅　彰隆　富山県立大学電子情報工学科／計算機センター
地域 IX 構築及びアプリケーションインフラ技術の研究

14:40-15:00　後藤　貴信　神奈川大学理学部情報科学科　後藤智範研究室
階層構造をもつ用語データのための Browsing Tool

15:00-15:10　休憩

「用語、データベース」

15:10-15:30　斎藤　友明　凸版印刷（株）
JAVA 言語を用いたガラス材料データベースの構築

15:30-15:50　長谷川　功　地質調査所
地質調査所の数値地質図の構造と利用

15:50-16:10　辻　宏子　東洋大学／関東学院大学非常勤講師
美術用語のシソーラス複合名詞を中心に

「情報・知識処理」

16:10-16:30　福島　俊一　ＮＥＣヒューマンメディア研究所
Web ページの重要度ファクタに関する一考察

16:30-16:50　中挟　知延子　東洋大学国際地域学部
合金設計分野の論文における意味表現と知識抽出

16:50-17:10　鈴木　祐介　神奈川大学理学部情報科学科　後藤智範研究室
仮想３次元空間における概念関係の表示モデル

17:10-17:30　畑口　冬彦　神奈川大学理学部情報科学科　藤原譲研究室
概念間の意味関係抽出とその構造化

17:30-　情報知識学会総会

以　上

[報告]

WDCM symposium 報告

情報知識学会理事　菅原秀明

国際培養生物系統保存連盟（World Federation for Culture Collections, WFCC）と微生物資源ネットワーク（Microbial Resources Centers network, MIRCEN）のデータセンターである培養生物世界データセンター（WFCC-MIRCEN World Data Centre for Microorganisms, WDCM）は、２月１６日に東京の九段会館において、１７カ国から１３１名の参加を得てシンポジュウム「２１世紀の微生物資源センター：新しいパラダイム（Microbial Resources Centers in 21st Century: NewParadigms）」を開催した。

シンポジウムの座長および講演者は欧米の主要な微生物資源センターの代表者等と、国内からは、駒形和男東京農業大学教授と、国立遺伝学研究所生命情報研究センター長五條堀　孝教授が講演者として、日本微生物資源学会渡辺　信会長が座長として参画された。

開催前には、発展途上国からの講演が無いという批判が寄せられたが、本シンポジウムと2月17-18日開催のOECD Working Party for Biotechnology (WPB) ワークショップとの関連をご説明するとともに、発展途上国からのメッセージを追加原稿として配布することでご理解を得ることに努めた。シンポジウム終了時には、発展途上国からの参加者の方々も「さまざまな方々と情報交換ができてよかった」という感想を漏らされていたとのことで大事に至らなかったが、この件は国際集会を開催にあたっての貴重な経験となった。

プログラムの構成は、機関あるいは専門分野ごとに順次発表する形式をとったが、プログラム最終のまとめのセッションに至るまで微生物資源センターのあり方全般について幅広い議論が行われた（資料 主な論点）。このシンポジウムの論点は前述のOECD WPBワークショップの会合の冒頭に、英国のMike Goodfellow教授によって紹介され当該ワークショップにおける微生物資源センターに関する議論に貢献をした。さらに、本シンポジウムとOECD WPBのワークショップは雑誌Scienceの1999年2月26日号（283巻）の1240-1241頁に「Culture Collections Seek Global Help」として取り上げられ、culture collectionへの認識を高める一助ともなった。

資料：シンポジウムにおける主な論点

Highlights of issues raised at the WDCM symposium

1. Value of Biological Resource Centres

- Provision of authenticated cultures and cell lines
- Preservation of living cultures
- Patent deposit facilities
- Provision of information on strains ミ access to databases
- Education and training
- Centres of taxonomic expertise ミ research element
- Other services (e.g. identifications, bulk supply of cultures for screening, reference cultures for quality control)

2. Current and future challenges

- Raise awareness of importance of BRCs to customers, policy makers, scientific community and general public
- Improved quality control
- Access to databases, genomics, proteomics and phenomics
- Build up world stocks of fully characterised, culturable organisms
- Balance between service provision and research
- Interaction between service and specialist collections
- Provision of well equipped laboratories
- Attraction and retention of skilled staff

3. Scope for international collaboration

- Specialisation of BRCs into scientific/taxonomic areas
- Co-ordinated accession policies
- Exploitation of local and regional diversity
- Sharing of expertise
- Minimise duplications
- To establish quality control strategies for bio-materials: Collaborative research improved preservation techniques, representative sampling of microbial diversity
- Joint promotion of the value of BRCs
- Pump prime funding for collaborative work
- National focus + regional perspective= scope for international collaboration

注：シンポジウムのプログラム、アブストラクトなどは http://wdcm.nig.ac.jp/ にて閲覧可能

［お知らせ］

情報知識学会が関連する行事予定

本学会は年間を通じ、外部の団体から共催・後援などの要請を受け、趣旨を検討のうえ、可能な限り協力しています。逐次、誌上で紹介しますので、ご関心あれば、どうぞご参加ください。

a．ＩＮＦＯＳＴＡシンポジウム'99

主　催：社団法人　情報科学技術協会
後　援：情報知識学会　他
開催日：１９９９年６月２５日（金）
会　場：大阪市立大学　学術情報総合センター（大阪市杉本町）
内　容：１．大阪市立大学 学術情報総合センター 見学会
　　２．一般発表　　14～16 件予定
　　３．特別講演　　関西大学教授　　名和　小太郎氏
　　演題「デジタル／ネットワーク時代の著作権のあり方」
　　４．懇親パーティ
参加費：8,000 円
問合先：112-0002　東京都文京区小石川 2-5-7　佐佐木ビル
　　Tel 03-3813-3791　Fax 03-3813-3793
　　E-mail：infosta@infosta.or.jp
　　URL http://www.infosta.or.jp/

b．人文科学とコンピュータシンポジウム（じんもんこん 1999）

趣　意　書

人文科学分野へのコンピュータ応用は、人文科学に質的な変革をもたらしつつあります。研究資源として利用可能な大規模テキストデータベースや、マルチメディアデータベースの整備が世界的に進みつつあり、情報処理技術を駆使して新しい知見を見いだすことが可能な状況が生まれています。博物館・美術館・図書館の電子化も、今後益々進展することが予想されます。一方、情報処理側にとっても、新たな技術開発につながるヒントが、人文科学分野の要求の中にあります。大量データからの知識発見や、データの標準化・流通の問題など、当分野の課題は多くあります。

人文科学とコンピュータの協業を目指す、（社）情報処理学会「人文科学とコンピュータ研究会」（会員数 300 名）は、平成１０年度で発足１０年を過ぎたことを記念して、同研究会主催シンポジウムを今年度より定期開催します。このシンポジウムは、人文科学とコンピュータの境界領域に関心がある研究者、企業関係者、博物館・美術館・図書館関係者を対象に、当分野の最新の研究発表と情報交換を目的として、発表と討論の場を提供するものです。

主　催：(社) 情報処理学会　人文科学とコンピュータ研究会
共　催：国立民族学博物館
後　援：情報知識学会　他
開催日：平成１１年９月１７日（金）～１８日（土）
会　場：国立民族学博物館（大阪府吹田市）
テーマ：人文科学分野へのコンピュータ応用をめざした
（１）新しい情報処理手法の開発
（２）システム・コンテンツの開発・事例
（３）学際的研究や理論的研究
主要プログラム：基調講演、招待講演、学術発表、企業展示、
民博館内見学など
実行委員長：杉田繁治（国立民族学博物館）
実行委員　：門林理恵子（ＡＴＲ）、久保正敏（民博）、
柴山守（大阪市大）、山田奨治（日文研）
プログラム委員長：八村広三郎（立命館大学）
プログラム委員　：及川昭文（総研大）、小沢一雅（大阪電通大）、
加藤常員（大阪電通大）、鈴木卓治（歴博）、
原正一郎（国文研）、村上征勝（統数研）、安永尚志（国文研）
参加料：主催・共催・後援団体等会員 8,000 円，一般参加者：10,000 円
学生参加者 3,000 円
予想参加者数：１００名（大学関係、企業関係、博物館・美術館・
図書館関係など）
論文集発行部数：２００部（予定）
問合先：情報処理学会シンポジウム係
Tel:(03)5484-3535　Fax:(03)5484-3534
E-mail:sig@ipsj.or.jp
URL:http://sylab.nichibun.ac.jp/jmk99/

［お知らせ］

年会費納入について

本年４月から平成１１年度となりましたので、情報知識学会会員の皆さまには平成１１年度年会費の納入をお願いします。

１．年会費の金額

正会員 8,000 円、学生会員 4,000 円。
法人会員には個別に、請求書を郵送しますので、到着後、金額をお確かめのうえお支払ください。
正会員・学生会員のかたで請求書の必要なかたはお知らせください。

２．納入方法

郵便口座番号　００１５０－８－７０６５４３
加入者名　　情報知識学会
団体名で支払う場合は、通信欄に個人名を記入。

郵便局での支払いが困難なかたは下記へ振り込んでください。
三和銀行秋葉原東口支店　普通預金口座　３６０６５９０　情報知識学会
団体名で支払う場合は、別便（TEL,FAX,E-mail など）で個人名を要通知。

３．納入期日

５月末までに納入してください。
毎回ご面倒なかたは、銀行の自動支払（契約）もできるはずです。

４．滞納会費

今年度以前の年会費その他を滞納されているかたは、今年度分との合計金額をお支払ください。

５．納入なさった年月日の確認方法

学会誌、ニューズレターなどをお届けしている封筒の宛名ラベルに表示してあります。［　］内の６桁の数字です。西暦の最初の２桁は省略してます。例えば［990401］は 1999 年４月１日を現しています。
［　］内が空欄のかたは滞納です。ただし本年度 1999 は５月末が納入期限です。
今年度から入会なさったかたは、昨年度以前が［------］と表示してあります。
この表示システムは郵便局・銀行・印刷・封入・発送行程を経由しますので、実際の納入から２週間ほどかかります。ご了承ください。

ご不明の点はご遠慮なくお問い合わせください。

情報知識学会事務局
E-mail:LDE01013@nifty.ne.jp　TEL:03-3835-5692　FAX:03-3837-0368

［お知らせ］

情報知識学会ホームページのURLの変更

情報知識学会ホームページの新しいURLは以下のとおりです。

http://angelos.info.kanagawa-u.ac.jp/jsik/main.html

以前のURLから「ed6」が抜けて、シンプルになりました。

■編集後記

ちょうど一年日本を留守にして、アメリカのミシガン大学に研究員として滞在していました。荷物はなるべく減らそうと思っていたので本の類はほとんど持っていきませんでした。最初の3カ月ぐらいは異国の生活に慣れるので精いっぱいでしたが、まわりの景色が日常になり、気持ちに余裕が出てくると日本語がむしょうに読みたくなってきました。ミシガン大学には全米でもトップクラスの蔵書数を誇るAsia Libraryがあって、そこに行けば日本語の本はいくらでも読めるのに、結局そこで本を読むことはほとんどしませんでした。たまに行っても、書架のまわりをひととおり歩くだけで、あとはJapanese SectionやChinese SectionのLibrarianとおしゃべりするだけで帰っていました。

では何を読んでいたかというと、遊びにきた友人に持ってきてもらった数少ない本を除けば、あとはひたすらWebページを読んでいました。日本にいた頃もWebページはそれなりに見てましたが、どこかまだ軽く見ているところがありました。しかし、それ以外に読むものがないとなると（いや、Asia Libraryにはあるんだけど…）、おもしろいページ探しに没頭してしまいました。すると、出てくるは出てくるは宝の山って感じでした。「インターネットは素人じゃあるまいし…」などとつぶやきつつ、これが世間でいうところのインターネット中毒症というものかと妙に納得していました。今さらながらですが、Webの世界は侮れないと思いました。「Webの再発見」というのがアメリカで得た成果の一つです。

ニューズレター編集委員　宇陀 則彦

■複写をされる方に

R <学協会著作権協議会委託>
日本国内における、当ニューズレターからの複写許諾は、学協会著作権協議会から得てください。
学協会著作権協議会
〒107 東京都港区赤坂9-6-41
TEL:03-3474-4621, FAX:03-3403-1738
アメリカ合衆国における複写については、Copyright Clearance Center, Inc.から得てください。
Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA. 01923, USA
TEL: 508-750-8400, FAX: 508-750-4744